

内灘町

液状化マップ

◆液状化マップとは◆

- 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、首都圏臨海部において液状化現象が発生し、住宅や道路、ライフラインなどに大きな被害を及ぼしました。
- 内灘町では、1799 年（寛政 11 年）に発生した金沢地震において液状化の履歴が確認されています。
- 液状化による被害を軽減するためには、町民の皆さんが、液状化のしくみや危険性を正しく理解し、地盤の状況や建物の特性に応じた対策を行うことが重要であることから、液状化の可能性が高いと想定される地域を確認していただくため、液状化マップを作成しました。

◆マップをご覧いただく際の注意事項◆

- 液状化マップは、内灘町の地形・地盤の特性を考慮して、邑知潟起震断層（M7.6）や森本・富樫断層（M7.2）による地震と、直下型地震（M6.9）を重ね合わせ、震度 6 強から 7 の地震が発生した場合を想定して液状化発生の可能性を 50m メッシュ単位で色分けしたものです。
- このマップは「液状化しやすさ」の傾向を示したもので、実際に液状化が起こるかは、地震動の大きさや揺れの長さ、地盤の特性や地下水の状況によって異なります。
- また、図化にあたって液状化対策は実施されていないものとして想定しており、あくまでも予測結果であることをご理解の上、参考にしてください。

液状化マップ

液状化とは?

液状化とは、地震によって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象です。通常、地盤は土や砂・水・空気などが均等に混ざって構成されています。しかし、地震等の大きな揺れによって、これら安定していた土・砂・水が分離され、地盤が水に浮いたような状態になってしまいます。

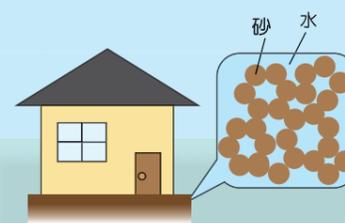
液状化が起これると、泥水の噴き出し、地中のマンホールの浮き上り、建築物の傾き・倒壊などの被害が発生することがあります。



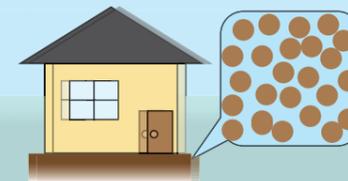
マンホールの浮き上り（東日本大震災）
写真：独立行政法人土木研究所

液状化発生の流れ

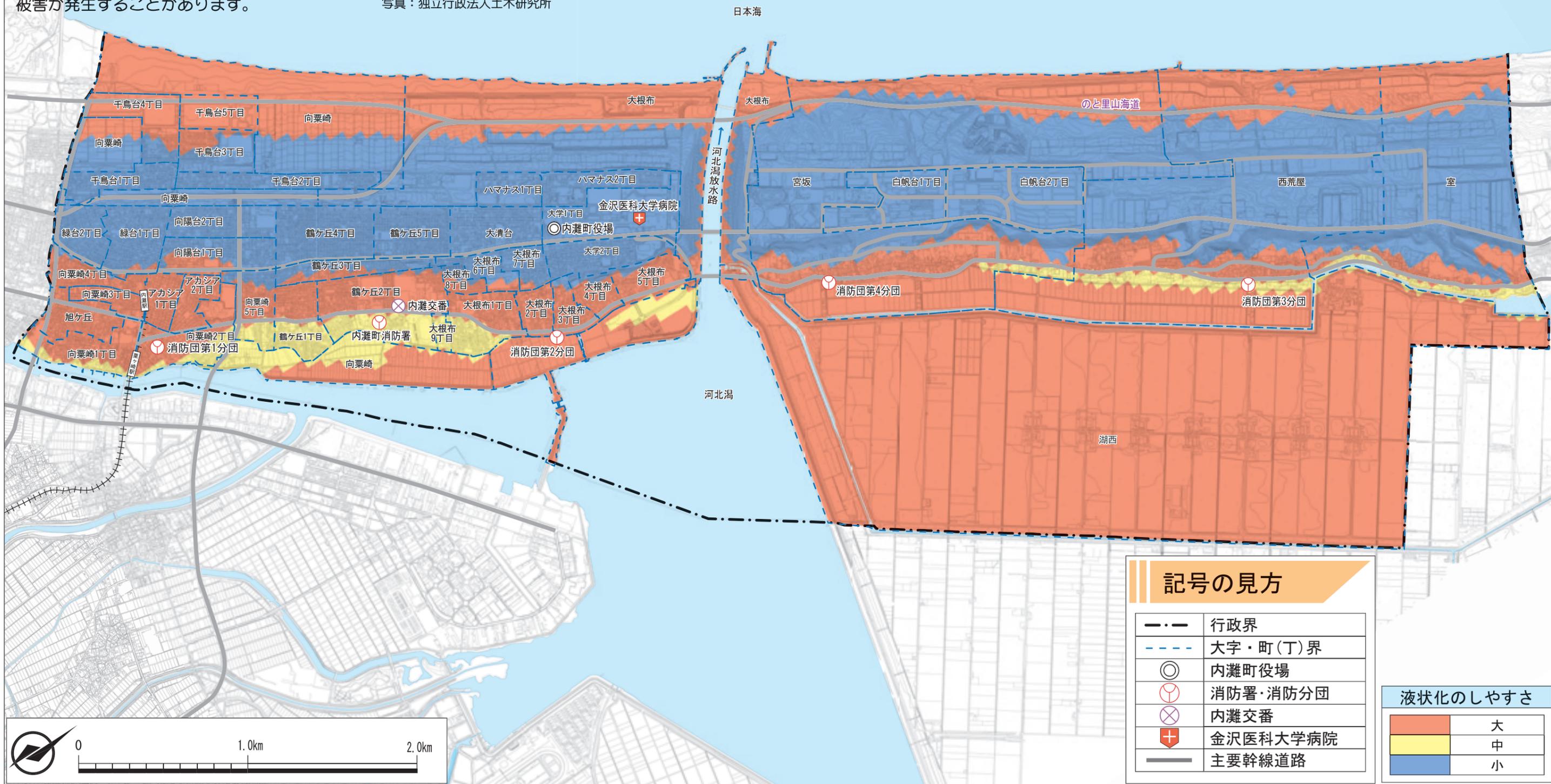
①平常時 地盤は砂粒同士が接触していることで強さを保っています。



②地震時 間隙の水を押し出す力が働き、砂粒同士が接触する力を弱めて「泥水」のような状態になります。



③地震後 泥水の中の砂粒が沈降し、砂粒と砂粒の間隙が小さくなり地盤が沈下します。



記号の見方	
— · —	行政界
- - -	大字・町(丁)界
◎	内灘町役場
⊗	消防署・消防分団
⊗	内灘交番
+	金沢医科大学病院
—	主要幹線道路

液状化のしやすさ	
Red	大
Yellow	中
Blue	小

液状化による被害を軽減するために。

Q&A

Q 内灘町は砂丘地なので液状化の危険が高いと聞きますが、大丈夫ですか。

A 埋立地や河口付近、地下水位の高い地盤が液状化しやすいと言われており、内灘砂丘は標高が高く地下水位が低いいため液状化の可能性は低いです。ただし、海岸線や河川等に近い部分や河北潟干拓地は地下水位が高いため液状化の可能性が大きくなっています。

Q 液状化マップで「液状化しやすさ大」の区域に自宅が含まれています。どうすればよいのでしょうか。

A 液状化の可能性が高くても、その区域全体が液状化するわけではありません。過去の事例から液状化発生の面積率は、液状化の可能性が高い区域で、20%程度です。

液状化は、締りのゆるい地質と地下水の高さが要因となるため、専門家に相談して地質や地下水位などの状況を把握してください。その上で建物の耐震性能や地盤を強化する措置を行うことで被害を軽減することができます。

また、東日本大震災で液状化被害が多く発生したことから、住宅の傾きに対する保険認定基準が設けられていますので、地震保険による補償もご確認ください。

お問い合わせ先

内灘町役場

石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 2 番地 1

TEL : 076-286-1111 (代表)

FAX : 076-286-0617

URL : <http://www.town.uchinada.lg.jp/>